様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ１２９６４

研究課題名（和文）ナラトロジーと空間論の接続による19世紀英国小説のテクスト相関性に関する研究

研究課題名（英文）An Intertextual Study of 19th-century British Literature through Relating Narratology to Spatial Theory

研究代表者
佐久間　千尋（Sakuma, Chihiro）

東京都立大学・人文科学研究科・助教

研究者番号：７０８３７２３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：語りの構造と空間の観点からテクストを分析し、魔女のモチーフに着目することで、1844年Blackwood’s Edinburgh Magazineの連載とブロンテ姉妹の小説との相関性を明らかにし、さらにブロンテ姉妹とジョージ・エリオットの小説におけるJacob GrimmのDeutsche Mythologieの要素を見出した。本研究成果は、ロマン主義文学の汎ヨーロッパ的系譜の再構築に寄与するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ナラトロジーと空間論の接続によるテクスト分析により、歴史、文化、神話といった広範囲の文脈に存在する魔女の系譜を構築することは、ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオットをイギリス文学史上に位置づける上で意義深い。本研究において、ブロンテ姉妹およびジョージ・エリオットの小説とJacob GrimmのDeutsche Mythologieとの相関性を見出すに至った。本研究を通して得られた成果を踏まえた議論を今後展開していくことにより、ブロンテ姉妹および同時代作家の汎ヨーロッパ的系譜の再構築を継続して行っていくことが可能となる。

研究成果の概要（英文）：This study examines 19th-century British literature through a fresh perspective on narrative structures and spaces, illuminating potential intertextual relationships. George Eliot’s novella, The Lifted Veil, showcases a dualism, symbolized by a veil. Charlotte Bronte’s Jane Eyre and Emily Bronte’s Wuthering Heights exhibit a recurring theme of witchcraft, likely influenced by articles on these classic novels published in 1844 by Blackwood’s Edinburgh Magazine and possibly Jacob Grimm’s Deutsche Mythologie. George Eliot’s The Mill on the Floss, when considered with its witchcraft motif, seems to echo Grimm’s Deutsche Mythologie. An intertextual link between Grimm’s mythology and the works of the Bronte sisters and George Eliot provides insight into their narrative lineage in the broader Pan-European context.

研究分野：19世紀英文学

キーワード：シャーロット・ブロンテ　エミリ・ブロンテ　ナラトロジー　空間論　テクスト相関性　Deutsche Mythologie　ジョージ・エリオット　魔女

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ブロンテ姉妹に関する数多くの先行研究において、語りの構造の分析ならびに空間の解釈も着目されてきたが、それぞれ個別に行われてきた議論が主であり、両者を関連づけて分析するという試みは看過されてきた傾向がある。空間の概念のとらえ方のみならず、語りの構造の内包する多様性もまた両者の関連性が見過ごされてきた要因と考えられる。また、ブロンテ姉妹の小説に関する先行研究は、類似性・共通性を表す独立した解釈にとどまる傾向があるように見受けられる。ロマン主義小説の系譜の再構築には、テクスト間の相関関係を明白に提示することが不可欠である。申請者は、これまでの研究において、語りの構造と空間の相互関係を分析することにより、伝記的事実からは結びつかない作家同士の接点の可能性を明らかにする成果をあげてきた。語りの構造と空間の視座からテクストを精緻に読み解く過程において明らかとなる問題点、あるいは他のテーマと関連する解釈の可能性は、潜在的な領域を開拓する術を提示することが期待される。ナラトロジーと空間論を接続させることにより、これまで必ずしも明瞭ではなかった同時代作家の相関性を明らかにし、ブロンテ姉妹をロマン主義小説の系譜に位置づけることにつながるのではないか。

したがって、本研究において、テクストの根幹をなす普遍的要素である「語りの構造」と、文化的･社会的背景を反映する要素である｢空間｣が相互に作用する仕組みを検証することにより、ブロンテ姉妹とその同時代作家たちが属するロマン主義小説の汎ヨーロッパ的系譜の再構築を行うことを目指した。

２．研究の目的

本研究では、ブロンテ姉妹とその同時代作家たちを中心とする小説のテクスト内部とテクスト間における「語りの構造」と「空間」との相互作用を検証することにより、これらの作家・作品が属するロマン主義小説の汎ヨーロッパ的系譜の再構築を行うことを目的とする。各小説テクストの相関関係を明らかにするのみならず、18 世紀小説から続くロマン主義小説の新たな、汎ヨーロッパ的系譜を構築することを目指す。

３．研究の方法

本研究では、先行研究の整理、テクストの精読および分析を主軸とした。研究方法としては、テクストの精読と先行研究の渉猟を並行して行い、収集した文献の議論を整理し、学説の確立されていない領域や議論の余地のある領域を抽出した。これらの過程によって獲得した視座について研究を進め、成果を研究発表および論文にまとめた。コロナ禍の影響を受け、渡英による調査を見送ったが、早期に文献の収集および整理に切り替えることにより、結果的に研究テーマに関して網羅的な研究を行うことができた。

４．研究成果

申請者の研究課題テーマである語りの構造と空間の観点からテクスト分析に取り組む中で、おとぎ話という広大な文脈におけるテーマの発展性、おとぎ話のジャンルと空間論を連動させうる魔女のモチーフを見出すことができた。歴史、文化、神話といった広範囲の文脈に存在する魔女の系譜を構築することは、ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオットをイギリス文学史上に位置づける上で意義深い。魔女の系譜を構築することは、ブロンテ姉妹が 1844 年の *Blackwood's Edinburgh Magazine* を読んだ可能性を見出し、Jacob Grimm の *Deutsche Mythologie* [*Teutonic Mythology*]の影響を読みとることにもつながった。これらは従来の先行研究に論じられてこなかった視座であり、ブロンテ文学の新たな側面を解明するものであると言える。

グリム兄弟をはじめとするおとぎ話についての先行研究を調査する中で、ブロンテ姉妹が受けた可能性のある影響について見識を得ることができ、今後の研究の端緒を開くことができた。さらに、同時代作家として、チャールズ・ディケンズの作品についても同じ魔女の系譜の観点から論じることにより、さらに広範な文学史上の位置づけが可能となる。今後も同時代作家の作品群へと考察の対象を広げていくことにより、汎ヨーロッパ的系譜の再構築に継続して取り組んでいく。

本研究課題において得られた成果の概要は、以下の通りである。本研究成果のうち未発表の論文については、順次公表を目指す。

（１）ジョージ・エリオットの *The Lifted Veil* の語り手であるラティマーに備わっている性質 previsionと insight が、語りの二重構造およびバーサに対して抱く二重性を構築していることを明らかにした。結末においてバーサの計画を曝露するために使用される輸血という手段にデカルトによる心身二元論を応用することにより、輸血の実験が語りの構造と連関していること

を明らかにした。本作品をナラトロジーと空間論の観点から分析し、語りおよび空間の二重性というテーマで考察することにより、空間における二重性/二元性、一人称による語りの新たな解釈の可能性を見出した。研究成果は『人文学報』（東京都立大学）にまとめて公表した。

（２）ブロンテ姉妹の作品に関する先行研究の調査により、エミリ・ブロンテの *Wuthering Heights* については、主に‘Cinderella’や‘The Beauty and the Beast’との類似性が指摘される傾向が見受けられるものの、姉のシャーロットの *Jane Eyre* に比べるとその文献数は少なく、おとぎ話との相関性という観点においては、未だ議論の余地が多分にあることが判明した。文献調査を通して、境界を超越する魔女という視座を獲得できたことは、本研究を大いに推進する結果となった。魔女のモチーフを用いて、*Wuthering Heights* を語りの構造と空間の観点から分析した研究成果を日本ブロンテ協会大会における研究発表にまとめて公表した。*Wuthering Heights* の“witch”に着目し、*Wuthering Heights* と多くの共通するモチーフを備えるグリム兄弟の“Sneewittchen”[“Little Snow-White”]を手がかりとして、語り手ネリーが魔女を体現していることを明らかにした。*Wuthering Heights* には「魔女」という表現が頻出するが、そのほとんどはネリーとキャシーに対して向けられたものである。ネリーは空間を管理することで屋敷内での地位を上げる。キャシーは空間の境界を越える能力を備えており、これは母親のキャサリンとは対照的である。空間を越境する魔女の要素を考慮すると、ネリーは魔女を体現し、彼女が養育したキャシーは魔女の要素を継承したものと解釈できる。本論は、ネリーとキャシーの潜在的な関係性を明らかにするものであり、また、従来数多の解釈が提示されてきた語り手としてのネリーの人物像を新たな視点からとらえ直すことを可能にした。

（３）シャーロット・ブロンテの *Jane Eyre* を魔女の系譜の観点から考察すると、シャーロットもまたエミリ同様、魔女のモチーフを意識的に作風に取り入れていることが指摘できる。しかし、彼女たちの作品への取り入れ方は一様ではない。シャーロットは *Jane Eyre* において魔女狩りの転覆を描いた。申請者は、1844 年の *Blackwood's Edinburgh Magazine* に２回に渡って連載された‘The Witchfinder’がシャーロットのインスピレーションの源である可能性を指摘した。本論文では、先行研究の議論を整理し、テクストを詳細に分析し、‘The Witchfinder’との相関性を見出した。Juliet Barker (*The Brontës*, 2001, p. 926)によると、ブランウェルが 1844 年の *Blackwood's Edinburgh Magazine* を手にしていた可能性がある。また、*Jane Eyre* には Jacob Grimm の *Deutsche Mythologie* の影響を読みとることができる。*Blackwood's Edinburgh Magazine*, Vol. 55, No. 344 [June 1844] には *Deutsche Mythologie* における妖精に関する章から短い抜粋が掲載されており、また、グリム兄弟の *Deutsche Sagen* [*German Legends*] の英訳も掲載されていることから、本書について姉妹が目にしていた可能性は否めない。本研究成果をまとめた論文は 2022 年 8 月に国際学術誌に投稿し、現在査読中である。

(４)上述（２）の研究発表の内容に魔女狩りの構図を重ねて考察することにより議論を展開し、論文にまとめた。ネリーとキャシーに対して魔女と呼ぶジョウゼフに焦点を絞ることにより、魔女のモチーフが構築する関係性を明らかにした。魔女の歴史的・文化的背景に照らすと、ジョウゼフは魔女狩り人を体現していることを指摘できる。また、一部分‘The Witchfinder’との描写の類似性も見受けられる。さらに、ジョウゼフには Jacob Grimm の *Deutsche Mythologie* における雷神トールの要素も読みとることができる。1835 年出版の *Deutsche Mythologie* の英訳は 1883 年初出版であるが、伝記的にドイツ語の学習に熱心だったとされているエミリが原書を読んでいた可能性は否定できない。姉妹の作品の中でも *Wuthering Heights* に特にその要素が現れているのは裏付けとなるだろう。トールはオークに宿るとされており、中核をなすキャサリンの幼少期の樫の箱型寝台とも密接に関連している。魔女の系譜の観点から本作品を分析することにより、個別の表象として考察されてきた樫の箱型寝台や魔女、各登場人物に新たなる接点を見出した。本論は、エミリ・ブロンテが神話的側面と魔女狩りのリアリズム的側面を織り交ぜて *Wuthering Heights* を創作したことを明らかにするものである。本研究成果をまとめた論文は 2022 年 11 月に国際学術誌に投稿し、現在査読中である。

(５)ブロンテ姉妹の作品における魔女のモチーフを踏まえ、ジョージ・エリオットの *The Mill on the Floss* について論じた。作中に現れる魔女狩りの構図を分析することにより、魔女と連想されるマギーが境界を超える魔女像を体現していることを浮き彫りにし、新たな視座からとらえなおすことができた。また、フィリップの人物像に Jacob Grimm の *Deutsche Mythologie* の要素を見出した。さらに、おとぎ話の観点からマギーと彼女を取り巻く人物たちとの関係性を考察し、本作品をおとぎ話、神話、魔女狩りの史実という広大な文脈に位置づけることが可能となった。本研究成果は『人文学報』（東京都立大学）にまとめて公表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Sakuma, Chihiro.	４．巻 第517-13号
２．論文標題 What the Transfusion Unveils: Dualism Lurking behind The Lifted Veil.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 人文学報	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Sakuma, Chihiro.	４．巻 第519-13号
２．論文標題 Maggie as a Witch Figure: The Protagonist’s Fluctuations in The Mill on the Floss.	５．発行年 2023年
３．雑誌名 人文学報	６．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 佐久間　千尋
２．発表標題 空間を掌握する魔女たち－『嵐が丘』と「白雪姫」
３．学会等名 日本ブロンテ協会第36回大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関